

法人企業景気予測調査

(第55回 平成29年10～12月期調査)
【兵庫県下の調査結果】

目 次	
調 査 要 領	1
概 況	2
1 . 景況（企業の景況）	3
2 . 売 上 高	4
3 . 経 常 利 益	5
4 . 設 備 投 資	6
5 . 雇 用	6
【 参 考 】 企 業 金 融	7

(連絡・問い合わせ先)

近畿財務局 神戸財務事務所 財務課

TEL : (078) 391-6942



調査要領

1. 調査の根拠と目的

我が国経済活動の主要部分を占める企業活動を把握することにより、経済の現状及び今後の見通しに関する基礎資料を得ることを目的に、統計法に基づき一般統計調査として年4回実施している。

2. 調査時点

平成29年11月15日（前回調査 平成29年8月15日）

3. 調査対象期間

①判断項目：平成29年 10～12月期（または12月末）見込み

平成30年 1～3月期（または3月末）見通し

平成30年 4～6月期（または6月末）見通し

②計数項目：平成29年度上期は実績、平成29年度下期及び通期は見込み（または計画）

4. 調査対象範囲

兵庫県に所在する資本金1千万円以上の法人。ただし、電気・ガス・水道業及び金融・保険業は、資本金1億円以上を対象とする。

5. 集計方法

判断調査項目、計数調査項目とも単純集計を行っている。

6. 標本企業の選定方法及び調査票の回収状況

標本は、四半期別法人企業統計調査の標本から、一定の方法により無作為抽出を行う。

調査対象法人による自計記入方式とし、郵送による提出もしくはオンライン入力により回答を得ている。

なお、毎年4～6月期調査前に標本の抽出替えを行っている。

（調査対象企業・回収率）

区分	全産業			製造業			非製造業		
	標本企業数	回収企業数	回収率	標本企業数	回収企業数	回収率	標本企業数	回収企業数	回収率
全規模	472	395	83.7	187	161	86.1	285	234	82.1
大企業	145	138	95.2	74	68	91.9	71	70	98.6
中堅企業	120	105	87.5	45	40	88.9	75	65	86.7
中小企業	207	152	73.4	68	53	77.9	139	99	71.2

（注）大企業：資本金10億円以上
中堅企業：資本金1億円以上10億円未満
中小企業：資本金1千万円以上1億円未満

7. 業種分類

日本標準産業分類に基づき業種分類を行っている。

（参考）BSI（Business Survey Index）について

BSIは、上昇、下降などの変化方向別回答数の構成比から全体の趨勢を判断するものである。

例：「企業の景況判断」の場合、前期と比べて

「上昇」と回答した企業の構成比：25.8% 「不変」と回答した企業の構成比：60.6%

「下降」と回答した企業の構成比：6.4% 「不明」と回答した企業の構成比：7.2%

$BSI = (「上昇」と回答した企業の構成比：25.8\%) - (「下降」と回答した企業の構成比：6.4\%) = 19.4\%ポイント$

概 況

兵庫県に所在する資本金1千万円以上の法人（ただし、電気・ガス・水道業及び金融・保険業は、資本金1億円以上）472社を対象として実施した。平成29年11月15日時点での法人企業景気予測調査（回収率83.7%）の結果は、次のとおりである。

〔景況（企業の景況）〕

- 29年10～12月期の企業の景況判断BSI（前期比「上昇」－「下降」社数構成比、原数値）をみると、全産業は「上昇」超となっている。
- 先行きについて、30年1～3月期、30年4～6月期いずれも、全産業で「上昇」超で推移する見通しとなっている。

〔売上高（除く電気・ガス・水道、金融・保険）〕

- 29年度下期は、全産業で 4.8%の増収見込みとなっている。
- 29年度通期は、全産業で 5.6%の増収見込みとなっている。

〔経常利益（除く電気・ガス・水道、金融・保険）〕

- 29年度下期は、全産業で ▲1.7%の減益見込みとなっている。
- 29年度通期は、全産業で 40.3%の増益見込みとなっている。

〔設備投資（除く土地、含むソフトウェア投資）〕

- 29年度通期は、全産業で 18.0%増の計画となっている。

〔雇 用〕

- 29年12月末時点の従業員数判断BSI（期末判断「不足気味」－「過剰気味」社数構成比、原数値）をみると、全産業で「不足気味」超となっている。
- 先行きについて、30年3月末、6月末いずれも、全産業で「不足気味」超で推移する見通しとなっている。

1. 景況(企業の景況) (判断調査)

— 全産業の現状判断は「上昇」超 —

29年10～12月期の景況判断BSI（前期比「上昇」－「下降」社数構成比、原数値）をみると、全産業で「上昇」超となっている。業種別では、製造業、非製造業いずれも「上昇」超となっている。規模別では、大企業、中堅企業、中小企業いずれも「上昇」超となっている。

先行きについて、30年1～3月期、30年4～6月期いずれも、全産業で「上昇」超で推移する見通しとなっている。

図表1 企業の景況判断BSI（原数値）（判断調査）

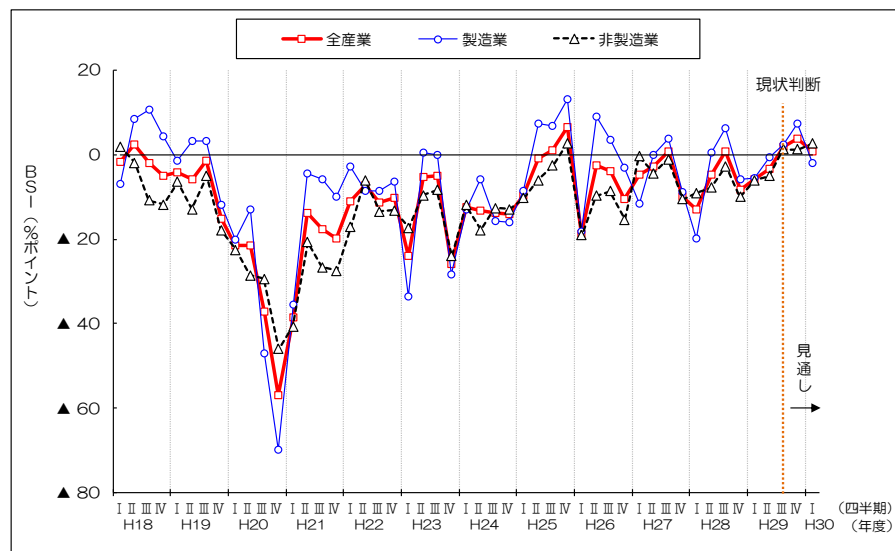
(前期比「上昇」－「下降」社数構成比：%ポイント)

区分		29年7～9月 (前回調査時) 現状判断	29年10～12月 現状判断	30年1～3月 見通し	30年4～6月 見通し
全規模	全産業	(▲ 3.3)	(5.5) 1.8	(▲ 0.5) 3.8	0.8
	製造業	(▲ 0.6)	(9.1) 2.5	(4.8) 7.5	▲1.9
	非製造業	(▲ 5.1)	(3.0) 1.3	(▲ 4.3) 1.3	2.6
大企業	全産業	(▲ 0.7)	(10.2) 0.7	(8.0) 6.5	▲1.4
	製造業	(▲ 4.5)	(17.9) 5.9	(14.9) 16.2	▲2.9
	非製造業	(2.9)	(2.9) ▲4.3	(1.4) ▲2.9	0.0
中堅企業	全産業	(▲ 1.0)	(2.9) 2.9	(▲ 3.8) 0.0	4.8
	製造業	(0.0)	(4.8) 12.5	(▲ 2.4) 0.0	10.0
	非製造業	(▲ 1.6)	(1.6) ▲3.1	(▲ 4.8) 0.0	1.5
中小企業	全産業	(▲ 7.0)	(3.2) 2.0	(▲ 5.7) 3.9	0.0
	製造業	(3.6)	(1.8) ▲9.4	(▲ 1.8) 1.9	▲9.4
	非製造業	(▲12.9)	(4.0) 8.1	(▲ 7.9) 5.1	5.1

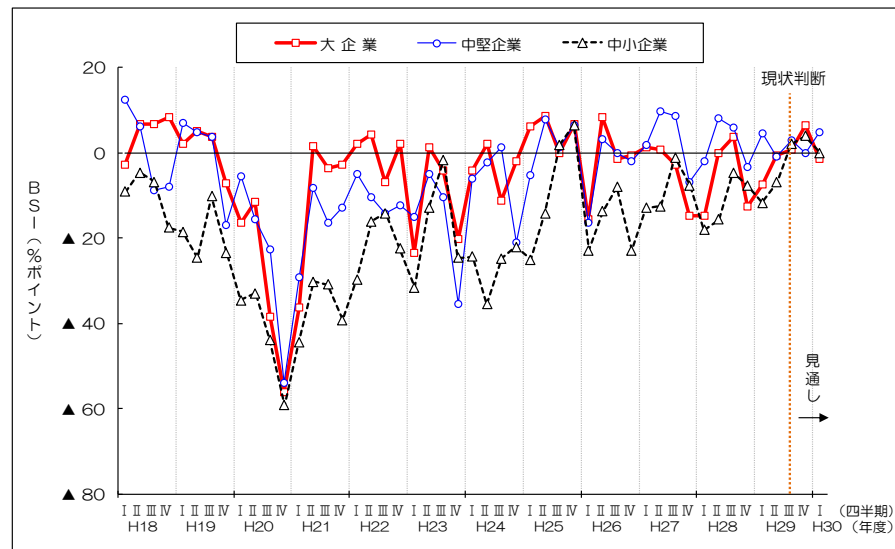
※ 回答社数 395社

※ ()は、前回(平成29年7～9月期)調査結果

図表2 【産業別】 景況判断BSIの推移



図表3 【規模別】 景況判断BSIの推移



2. 売上高 (除く電気・ガス・水道、金融・保険。計数調査)

— 29年度下期は増収見込み、通期は増収見込み —

29年度下期の売上高は、全産業で4.8%（対前年（同期）増減率、以下同じ。）の増収見込みとなっている。

製造業では、鉄鋼などが増収となることから、全体では5.9%の増収見込みとなっている。また、非製造業では、運輸、郵便などが増収となることから、全体では2.9%の増収見込みとなっている。

29年度通期は、全産業で5.6%の増収見込みとなっている。

製造業では、5.7%の増収見込みとなっている。

非製造業では、5.5%の増収見込みとなっている。

図表4 売上高 (除く電気・ガス・水道、金融・保険。計数調査)

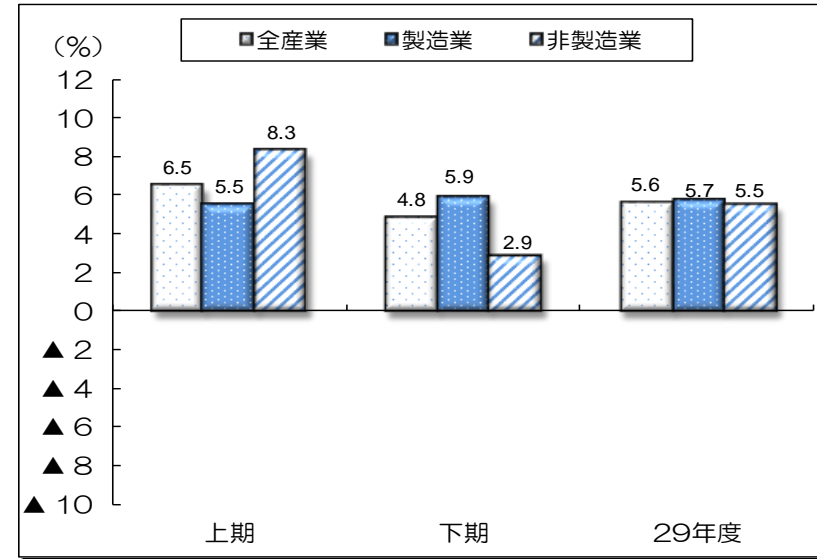
(対前年(同期)増減率：%)

区分	上期		下期		29年度	
	増減率	増減率	増減率	増減率	増減率	増減率
全規模	全産業	(7.3) 6.5	(3.3) 4.8	(5.2) 5.6		
	製造業	(6.2) 5.5	(3.9) 5.9	(5.0) 5.7		
	非製造業	(9.5) 8.3	(2.2) 2.9	(5.7) 5.5		
大企業	全産業	(8.0) 7.0	(3.7) 5.3	(5.7) 6.1		
	製造業	(7.0) 6.0	(4.1) 5.9	(5.5) 6.0		
	非製造業	(10.2) 8.9	(2.9) 4.0	(6.4) 6.4		
中堅企業	全産業	(3.7) 3.9	(1.4) 1.8	(2.5) 2.8		
	製造業	(▲4.8) ▲4.2	(4.8) 7.0	(▲0.2) 1.2		
	非製造業	(8.1) 8.1	(0.1) ▲0.4	(3.8) 3.5		
中小企業	全産業	(▲6.6) ▲7.9	(▲6.8) ▲5.1	(▲6.7) ▲6.4		
	製造業	(▲8.8) ▲3.3	(▲9.6) ▲1.6	(▲9.2) ▲2.4		
	非製造業	(▲3.8) ▲12.7	(▲3.6) ▲8.4	(▲3.7) ▲10.4		

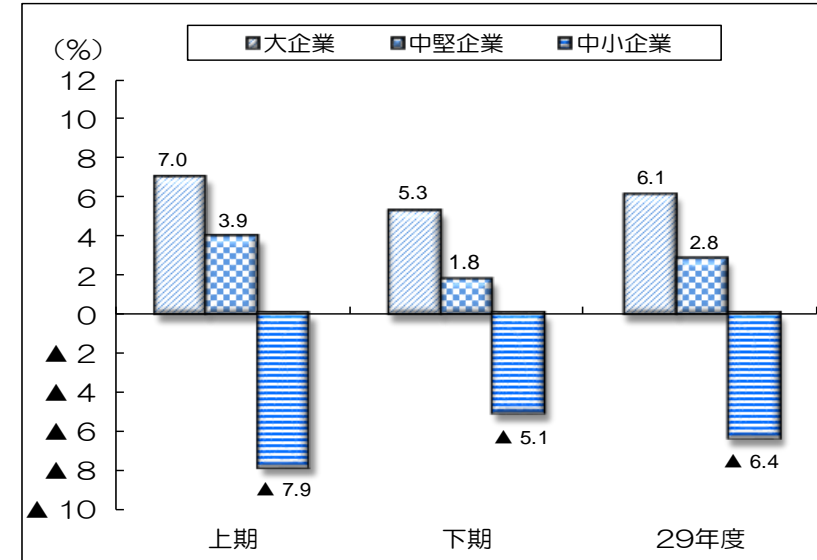
※ 回答社数 253 社の単純集計

※ ()は、前回（平成29年7～9月期）調査結果

図表5 [産業別] 対前年（同期）増減率



図表6 [規模別] 対前年（同期）増減率



3. 経常利益 (除く電気・ガス・水道、金融・保険。計数調査)

— 29年度下期は減益見込み、通期は増益見込み —

29年度下期の経常利益は、全産業で▲1.7% (対前年(同期)増減率、以下同じ。)の減益見込みとなっている。

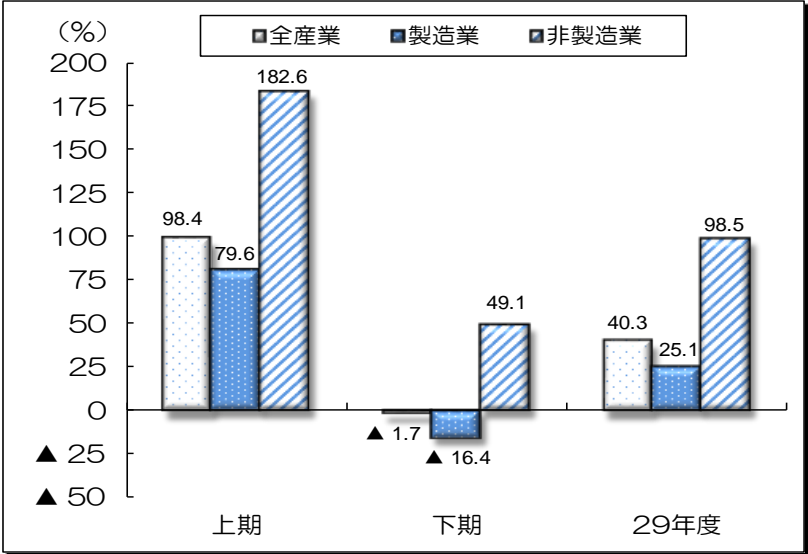
製造業では、その他製造業などが減益となることから、全体では▲16.4%の減益見込みとなっている。また、非製造業では、運輸、郵便などが増益となることから、全体では49.1%の増益見込みとなっている。

29年度通期は、全産業で40.3%の増益見込みとなっている。

製造業では、25.1%の増益見込みとなっている。

非製造業では、98.5%の増益見込みとなっている。

図表8 [産業別] 対前年(同期)増減率



図表7 経常利益 (除く電気・ガス・水道、金融・保険。計数調査)

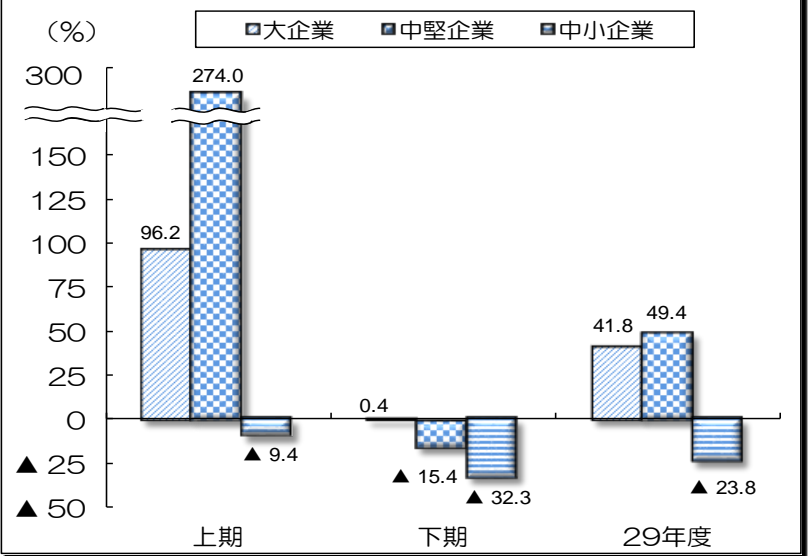
(対前年(同期)増減率：%)

区分	上期		下期		29年度	
	前年(同期)	対前年(同期)	前年(同期)	対前年(同期)	前年(同期)	対前年(同期)
全規模	全産業	(61.8) 98.4	(0.0) ▲1.7	(23.5) 40.3		
	製造業	(16.8) 79.6	(▲21.1) ▲16.4	(▲ 5.1) 25.1		
	非製造業	(418.0) 182.6	(60.8) 49.1	(135.8) 98.5		
大企業	全産業	(60.3) 96.2	(2.1) 0.4	(24.8) 41.8		
	製造業	(11.9) 72.1	(▲21.3) ▲16.4	(▲ 6.7) 23.2		
	非製造業	(2256.7) 276.4	(96.3) 82.7	(236.9) 149.6		
中堅企業	全産業	(163.2) 274.0	(▲11.0) ▲15.4	(28.5) 49.4		
	製造業	(赤字縮小) 黒字転化	(81.8) 58.9	(黒字転化) 黒字転化		
	非製造業	(17.1) 40.7	(▲18.1) ▲21.5	(▲ 3.0) 5.3		
中小企業	全産業	(▲17.7) ▲9.4	(▲30.4) ▲32.3	(▲25.9) ▲23.8		
	製造業	(▲17.9) ▲2.3	(▲40.2) ▲34.7	(▲31.3) ▲21.6		
	非製造業	(▲15.9) ▲38.9	(▲ 6.7) ▲26.6	(▲ 8.6) ▲30.1		

※ 回答社数 251 社の単純集計

※ ()は、前回(平成29年7~9月期)調査結果

図表9 [規模別] 対前年(同期)増減率



4. 設備投資 (除く土地、含むソフトウェア投資。計数調査)

— 29年度通期は18.0%増の計画 —

29年度通期の設備投資は、全産業で18.0%増（対前年（同期）増減率、以下同じ。）の計画となっている。

製造業では、輸送用機械などが前年を上回っていることから、全体では7.2%増の計画となっている。

非製造業では、運輸、郵便などが前年を上回っていることから、全体では50.2%増の計画となっている。

図表10 設備投資 (除く土地、含むソフトウェア投資。計数調査)

(対前年(同期)増減率：%)

区分	上期		下期		29年度	
全規模	全産業	(▲ 6.2) 8.3	(▲1.4) 25.5	(▲ 3.3) 18.0		
	製造業	(10.9) 8.4	(▲1.2) 6.3	(3.9) 7.2		
	非製造業	(▲41.3) 8.3	(▲1.6) 82.8	(▲17.1) 50.2		
大企業	全産業	(▲ 8.0) 6.5	(1.4) 29.0	(▲ 2.5) 19.0		
	製造業	(10.5) 7.8	(▲ 2.7) 5.6	(2.8) 6.6		
	非製造業	(▲49.5) 1.9	(10.5) 131.2	(▲14.7) 66.9		
中堅企業	全産業	(17.7) 31.6	(▲28.4) ▲ 7.4	(▲14.2) 4.7		
	製造業	(1.5) 1.8	(55.8) 38.4	(28.2) 19.3		
	非製造業	(26.3) 47.1	(▲43.2) ▲ 14.8	(▲25.5) 0.9		
中小企業	全産業	(98.6) 122.6	(▲28.5) 15.3	(6.3) 59.5		
	製造業	(159.3) 165.0	(62.1) 20.8	(100.7) 78.3		
	非製造業	(▲39.7) ▲ 39.6	(▲88.2) ▲ 13.3	(▲80.4) ▲ 25.8		

※ 回答社数 274 社の単純集計
 ※ ()は、前回（平成29年7～9月期）調査結果

5. 雇用 (判断調査)

— 全産業の現状判断は「不足気味」超 —

29年12月末時点の従業員数判断BSI（期末判断「不足気味」—「過剰気味」社数構成比、原数値）をみると、全産業は「不足気味」超となっている。

規模別にみると、大企業、中堅企業、中小企業いずれの規模でも「不足気味」超となっている。

先行きについて、30年3月末、6月末いずれも、全産業で「不足気味」超で推移する見通しとなっている。

図表11 従業員数判断BSI（原数値） (判断調査)

(期末判断「不足気味」—「過剰気味」社数構成比：%ポイント)

区分	29年9月末 (前回調査時) 現状判断	29年12月末 現状判断	30年3月末 見通し	30年6月末 見通し
全規模	全産業	(18.7) 20.3	(15.4) 18.7	(13.6) 17.1
	製造業	(15.5) 18.4	(11.6) 13.8	(9.7) 13.8
	非製造業	(21.0) 21.7	(18.2) 22.1	(16.4) 19.4
大企業	全産業	(11.2) 10.4	(10.4) 9.6	(6.0) 8.9
	製造業	(4.5) 7.5	(3.0) 6.0	(▲ 1.5) 6.0
	非製造業	(17.6) 13.2	(17.6) 13.2	(13.2) 11.8
中堅企業	全産業	(23.8) 23.2	(16.8) 22.2	(14.9) 17.2
	製造業	(25.6) 27.0	(12.8) 18.9	(10.3) 13.5
	非製造業	(22.6) 21.0	(19.4) 24.2	(17.7) 19.4
中小企業	全産業	(22.4) 28.1	(19.4) 25.2	(20.1) 25.2
	製造業	(22.0) 27.1	(22.0) 20.8	(24.0) 25.0
	非製造業	(22.6) 28.7	(17.9) 27.6	(17.9) 25.3

※ 回答社数 369社
 ※ ()は、前回（平成29年7～9月期）調査結果

(1) 資金繰り判断BSI

29年10~12月期の資金繰り判断BSI (前期比「改善」-「悪化」社数構成比) は、「改善」と「悪化」が均衡している。

(2) 金融機関の融資態度判断BSI

29年10~12月期の金融機関の融資態度判断BSI (前期比「緩やか」-「厳しい」社数構成比) は、「緩やか」超となっている。

図表12 資金繰り判断・金融機関の融資態度判断BSIの推移 (全産業)

